



河村氏は様々な視点の重要性を説明した

女性委員研修交流会

地域を超えた交流で活動の活性化へ

農業会議は3月12日、大阪市内で女性農業委員会委員の研修交流会を開催し、府内の女性委員17人を含む26人が出席した。

会では、はじめに女性の農業委員会委員の登用状況について説明。平成28年の制度改正を経て女性委員が倍増し、現在府内には78人の女性委員が就任している。また、第5次男女共同参画基本計画においては令和7年度に

農業委員に占める女性の割合30%・女性が登用されていない農委ゼロが掲げられているが、大阪の登用率は12・7%で全国34位となっている。

次に立命館大学国際関係学部河村律子教授が「地域農業における女性の参画について」をテーマに講演した。

河村氏は「食」「農」の重要性や地域農業における女性の参画事例、女性農業委員の活動事例などを紹介。また、現在の状況を自由に様々な視点から考えることで本質が見えてくるとし、「農のある生活は豊かな生活であり、今の時代だからこそ大事にしたい。女性だからできる、できないではなく、常識や既成概念にとらわれず発想を豊かにし、豊かな地域をめざしてほしい」と話した。

地域農業への女性参画で講演

多様性で組織が活性化

南河内地区農委講習会

南河内地区農業委員会連合会（会長・藤井勝美藤井寺市農委会長）と農業会議は2月18日、藤井寺市立市民総合会館で令和6年度南河内地区農業委員会講習会を開いた。

講習会では、立命館大学国際

4グループで地域を超えた交流

講演後は4グループに分かれ、日々の農業委員会活動で思うことをテーマに意見交換。「以前と比べて女性委員が受け入れられていくように感じる」「総会時に活発な議論があれば地域農

女性委員450人が参集

女性農委活動推進シンポジウム

第20回女性の農業委員会活動推進シンポジウムが3月5日、東京都・砂防会館で開かれ、全国から女性の農業委員会委員等約450人が参加した。

シンポジウムでは山形県農村づくりプロデューサーの高橋信博氏が「地域計画の実行に向けて」をテーマに講演した他、京都府京丹波町農委事務局の永武

業がよくなるのでは」といった意見が多く挙げられた。また、中立委員が専門知識を活かして活躍している事例も多く、全てのアンケートが肯定的な意見であった。

識がないがために発言を躊躇した経験があり、農地法等の研修を求めていることも分かった。農業会議としては、7年度事業計画において複数回女性委員を対象とした研修会等を開催することとしている。

(田村)

幸子専門幹が「最少人数の事務局を救う」をテーマに事例報告した。また、地域計画実現に向けた活動に積極的に取り組むことや、農業・農村への理解醸成に向けた食農教育への取り組み、男女共同参画社会の実現を目指して女性の声を強く発信することを盛り込んだアピールが採択された。



全国や大阪府全体と比較して、40〜50代の女性の割合がやや高い傾向にあることを紹介した。

「地域」や「農業」への女性の参画のあり方については、農業の従事や経営への参画のみならず、地域計画策定への関わり、農業委員、JAの役職などと様々なものがあることを指摘した。

また、ダイバーシティ（多様性）について触れ、「組織に性

別などの異なった要素が含まれるようにすることで、これまでと違った視点や気づきが生まれ、組織が活性化する」と強調した。今後の地域の農業と社会の発展については「農業委員としてやるべき仕事は性別で異なるわけでない。多様な人が同じ立ち位置でかかわることで、風通しのよい、発展性のある社会の構築につながる」とした。(北川)